



竹田 ゆかり 市政通信

「先生が足りない…」 鎌倉市でも

一般質問より

教員不足の問題は、以前から鎌倉市でも起きていました。産休や育休等の「代替の教員」が見つからないため、見つかるまで校内の教員が本来の授業時数以上の授業や、校務を受け持つことになり、その結果、授業準備や子ども達と関わる時間が不足することになりました。近年は、更に「年度初めから担任が見つからない」というほど、深刻な事態が全国で起きています。

今年度、鎌倉市においても、年度初めから、神奈川県が配置すべきとしている教員数に達していない状況が起きていました。6月末にやっと配置できましたが、現在は、産休や育休に入った教員のための代替教員（フルタイム）や、市独自の施策として配置する予定の非常勤講師などが配置できていません。

「教員不足」の問題が、なぜここまで深刻化したのでしょうか。一言で言えば、ここまで放置してきた国に責任があります。今後は、学級編成や教員定数に関する法律（義務標準法）などの改正をするとともに、教員希望者が年々減少している問題を解決するためにも、一刻も早い「教育現場の多忙解消」が必要です。

しかし、昨年からはまった「GIGAスクール構想」の推進により、新たな業務が増えたにもかかわらず、そのために必要な人の配置が適

切になされず、更に教員希望者や退職後の再任用や非常勤講師の希望者が減少しています。文科省

は「ICT支援員」を各学校に配置するよう具体例を示しており、藤沢市では全校に配置されていますが、鎌倉市には配置されていません。鎌倉市においても全校への配置を求めました。

答弁 解決に向けて取り組みを進める。また、児童生徒が卒業した後、新一年生が使うことになるタブレットのデータ消去等の作業（19行程）も教員が行っています。対応を求めました。
答弁 業者委託も含めて検討。

●今年度は諸事情により、総務常任委員会に所属し、委員長を務めることになりました。その職責を果たすとともに、今後とも教育・福祉の分野からも目を放さず注視してまいります。どうぞどなたでも市政に関わるご意見お寄せ下さい。

「農の風景」を残す取り組みを

一般質問より

2017年「都市緑地法」が改正され、緑地の定義に「農地」が明記されました。理由は、都市農地が果たしている役割が、単に農業による食糧生産としての意義にとどまらず、景観形成、生活環境保全、防災、農業に対する理解を深めるなどとして、都市農地が貴重な緑地であるとされたからです。今年度は、農地所有者が生産緑地指定を受けて30年が経過し、税制優遇の期限を迎える年ですが、市の調査によれば、市内の生産緑地17.0haのうち2.1haの持ち主が、生産緑地指定の解除を行う意思を示しており、生産緑地は14.9haになる予定です。

一方、市街化区域内で、生産緑地指定を受けずに、住宅地並み課税を支払いながら、営農をされている農地所有者もおられます。住宅地に隣接するその水田には、毎年カモが飛来したり虫を鑑賞することもでき、まさに国交省が「保全すべき農地」の事例にあたる風景が鎌倉市に残っています。農の風景は子ども達の心を育み、市民の心を和ませます。貴重な「農の風景」を残している農営者を支援する制度策定を求めました。



5月13日撮影
写真中央にカモが3羽います。この後、カモは水田に入りタニシなどの虫を食べ始めました。残したい「農の風景」です。

「子どもの権利条約」の視点から 市の施策を考える

一般質問より

●「母子健康手帳」に「子どもの権利条約」を記載することを求めました。

近年、子どもの虐待や子どもの命が粗末に扱われる事件が増えています。これから生まれてくる子ども一人ひとりに「人としての権利」があることを妊娠中からご理解いただくために、「子どもの権利条約」の掲載を求めました。**答弁** 厚労省の検討結果も踏まえ、市として検討する。

●「かまくら子育てナビきらきら」の巻頭に「子どもがのびのびと自分らしく育つまち鎌倉条例」の記載を求めました。

「かまくら子育てナビきらきら」の発行費用は、すべて企業等の広告料で賄っています。市の情報と広告内容であふれていますが、市が、子育てを応援する姿勢を表す「のびのび条例」の巻頭での記載を求めました。

●ヤングケアラーの早期実態調査を求めました。

ヤングケアラー自身が自分の置かれている状況に気付いて「困りごとを相談できること」「支援を受けることができること」に気付けるよう、また教員自身がヤングケアラーの存在に気付けるよう、実態調査を早期に行うよう求めました。**答弁** 調査の在り方を検討していく。

主な議案と報告内容について

●子ども達が使うすべての教室に

「冷暖房設備」設置実現！

総員賛成

長年、くり返し一般質問で取り上げてきた小中学校への「冷暖房設備設置」ですが、来年3月末までに、すべての学校の、子ども達が使用するすべての教室に「冷暖房設備設置」が完了することになりました。近年の異常気象の中、タブレットはあっても、電子黒板はあっても、特別教室での学びは、マスクをしながら汗だくになっての学習でした。鎌倉市は財政状況を理由に、設置を引き伸ばしてきましたが、やっとより良い環境で学習に集中できるようになります。

●生涯学習センター指定管理者、僅差で決定。

賛成 14 反対 11 (竹田反対)

鎌倉市生涯学習センター（5地域館と分室）は、10月から指定管理者が運営することになり、管理者として「鎌倉CITYパートナーズ」が選定されました。「鎌倉CITYパートナーズ」は（株）相鉄企業と（株）小学館集英社プロダクションの2社で、今回初めて構成される共同事業体です。

市は、民間のノウハウを活用する…と説明しますが、「社会教育」は「学校教育」と同様、学ぶ内容に齟齬があつてはなりません。そのチェックは誰が行うのか。責任はだれがとるのか、懸念されます。

●大河ドラマ館の現状報告

入館者数、1日平均 827 人。(6/13 現在)
最終入館者数予測 26 万人。(当初見込み 50 万人) 事業費 6 億 6 千万円。入館収入予測、2 億 3 千 400 万円。残り 210 日間の誘客宣伝にかかっています。



学校のグラウンドが使えない？

一般質問より

鎌倉市の小中学校の校舎は一部の学校を除いて老朽化がかなり進んでいます。市は来年度中に、学校整備計画（建て替えか、長寿命化か。順番はどうするか）を策定することになっていて、説明によれば、その計画に合わせて、グラウンドも整備する予定とのことです。しかし、それまで待てない程グラウンドが劣化して、冬季の3か月間は、グラウンドを授業で使用することができない学校も生じています。グラウンドの劣化状況を調査するとともに、小規模改修計画を立てて頂きたい。

答弁 グラウンドの劣化状況について、現状把握をする。緊急性・重要性を考慮して対応を検討する。

😊 お声掛けください

◆竹田ゆかり市政通信は、定例議会が終わるたびに発行しています。ポスティングは、サポートして下さる方々にもお願いしていますが、すべてのご家庭に届いてはいません。

◆ご希望頂ければ、郵送させて頂きます。

◆また、ポスティングをして頂ける方（200部から）募集中です。お届けに上がります。

◆市政に関する困りごと、お受けしています。